

平成 24 年度 日本生体医工学会 第 1 回理事会

日時：平成 24 年 5 月 9 日 15:00～18:00

会場：西鉄グランドホテル 2F 鳳凰の間

会長	副会長		理事																監事		次期理事							次期監事
田村 俊世	砂川 賢二	千原 國宏	阿部 裕輔	生田 幸士	伊関 洋	大城 理	小笠原 康夫	楠岡 英雄	佐久間 一郎	佐藤 正明	篠原 一彦	嶋津 秀昭	杉町 勝	千田 彰一	林 紘三郎	牧川 方昭	湊 小太郎	山家 智之	堀 正二	橋爪 誠	石原 謙	木村 裕一	野村 泰伸	松田 哲也	山森 伸二	吉田 正樹	山口 隆美	
○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	

幹事		支部長									事務局
中村 亮一	南部 雅幸	木村 主幸	山口 昌樹	牧野 秀夫	福井 康裕	岩田 彰	村瀬 一之	梶谷 文彦	村山 伸樹	武田 伸彦	
○	○	×	×	×	×	×	○	×	○	○	

配付資料

- 24-1-2 平成 23 年度第 5 回理事会議事録
- 24-1-3 平成 24 年度第 1 回理事会入退会審査対象者
- 24-1-4 一般社団法人認可書
- 24-1-6-① 生体医工学フォーラム 2012
- 24-1-7 一般社団法人登記のための財務からの御願い(重要)
- 24-1-9-① 編集状況
- 24-1-9-② 電子英文ジャーナル創刊のために必要な事項
- 24-1-12-① ME 試験業務委託に関する (株) CE コーポレーションの覚書
- 24-1-12-② 論文賞・専門別研究会の持ち回り理事会審議・結果
- 23-1-12-③ 他団体との後援・協賛状況
- その他 (番号無し) 平成 24 年度定時社員総会資料

1. 開会

理事、監事出席者数が定則数 11 名を満了し理事会成立。

2. 議事録承認(審 総務 湊 資料 24-1-2)

出席理事数を 17 名に訂正。承認された。

3. 入退会状況(審・回覧 会員 湊 資料24-1-3)

資料回覧. 承認された

今年度定年を迎えて退会を申請された方が多いので, 可能であれば引き留めの

4. 一般社団法人化の認可報告と定款修正について(報 総務 湊 資料24-1-4)

湊理事より説明. 4月1日付けで認可された.

定款の軽微修正(第6条, 第11条, 第51条), 加筆(第6条4項)について承認された.

5. 選奨各賞受賞者決定報告(報 選奨 小笠原 総会資料)

事務局武田氏より説明. 総会資料41ページの通り決定した.

6. 生体医工学フォーラム2012について(報 山口 資料24-1-6-①(当日差替有))

山口理事より報告. 日本学術会議生体医工学分科会との共催にて実施.

これまで例年3月に実施されていた本フォーラムを継続させる.

福島震災復興支援をテーマに会津若松市生涯学習総合センターにて開催する.

今回は11月に東京にて佐久間理事を中心に実施する予定.

7. 専門別研究会・支部経費に関する会計処理について(報 財務 阿部 資料24-1-7)
阿部理事より報告. 法人組織移行に伴い一般法人法に基づく決算・予算作業の厳格化が求められる.

・ 決算日については法人の決算日3月31日に全ての書類処理を確実にを行うため, 支部会・専門別研究会の決算日を1月31日とする.

・ それに伴い支部会等の会計年度が今後2月~翌年1月となり, 法人より2ヶ月前倒しでの編成となるため補助金交付(4月以降)までの間立替払処理が必要となる.

林理事より平成24年度予算案との対応と他の各種委員会等組織の決算に関して質問. 阿部理事より平成24年度は支部・専門別委員会の事業は4月から1月までとなること, 他の組織については法人本体の事業として3月31日決算となると回答.

8. 平成23年度収支決算及び平成24年度収支予算案の件(報・審 財務 阿部 総会資料)

阿部理事より説明.

・ 平成23年度収支決算について総会資料23-25ページの収支計算書を元に説明.

震災等の影響による事業中止, 試験事業黒字等により全体1200万円の黒字.

IFMBE活動費のインデントがおかしいとの指摘. 医療技術開発推進委員会の内訳になっているが, 実際は1文字繰り上がりであるべき. 正式な収支決算書類である正味財産増減計算書内訳表(20ページ)には問題無く, 予算・決算額の計算は適切に行われており, 参考資料の表示上の問題のみなので来年度以降1文字繰り上がりで訂正する.

・ 平成24年度収支予算案について総会資料36-37ページの収支予算書を元に説明.

学会賞収入について, 日本光電(株)より荻野賞の賞金については受賞者が決定した時点で翌年度に賞金相当額を寄附する予定との説明(山森理事). 寄附の受け入れについては理事会審議事項であるので, 承認方法として

➤ 予算案に賞金相当額を盛り込むことで予算案承認と寄附承認を兼ねる

➤ 寄附のお申し出を頂いた時点で次回理事会で承認.

が考えられる. 来年度から予算案に組み込むこととした.

赤字予算案を立てて良いのかどうかについて質問(湊理事). 決算は黒字が望ましいが予算については大幅な赤字でなければ問題無い.

公益事業資産については減らしていくことが望ましいが, 公益事業の赤字を一般事業の黒字で補填する形で総額が黒字となっている場合, 公益財産の償還(一般財産への移行)となるため問題無い.

審議の結果承認された.

9-1. 編集状況(報 編集 牧川 資料24-1-9-①)

牧川理事より報告.

9-2. 電子英文ジャーナル創刊のために必要な事項 (報・審 編集 牧川 資料24-1-9-②)

牧川理事より説明.

1. 誌名 JSMBE Journal of Biological and Medical Engineering
2. J-stage での公開・電子査読利用に向けた作業 (理事会承認済)
3. 編集委員会の構成 委員長のみ新規とし本誌
4. 投稿規定 本誌の英文版投稿規定に準拠

について審議 (1. 2. 4).

1. 資料中誌名の and が end となっている・Medical と Biological が逆になっている点を修正し JSMBE Journal of Medical and Biological Engineering を案とするが, 学会名や Japanese が最初につく Journal はローカルな印象が強く国際誌としては不適との意見. Journal of Medical and Biological Engineering は台湾 BME 学会が発刊中. 韓国は Biomedical Engineering Letters を発刊中.
誌名については編集委員会審議を経た上で継続審議とする.
2. 編集委員会構成について承認された. しかし国際誌を目指す観点から日本国以外の地域からの Editorial Board Member を段階的に加えることを検討する.
3. 投稿規定について, Invited Review は掲載しない事となっているが Impact Factor について考慮すると良質の Review 論文は必須. Invited を外した(Invitedに限らない)Review については対象とすることを検討. また生体医工学シンポジウム特集号の英文誌での発刊 (Proceedings)は ISI による IF 審査の対象外となるため実施しない.
論文賞対象規定(筆頭著者が会員)については学会選奨のローカルな問題で有り Journal の問題ではないので削除するべき.
4. Ethical Consideration の(2)(3)の参考資料リンク先 pdf が日本語資料と思われるので要訂正.
(1)の人を対象とした規程に関しても, 日本の倫理規定と国際倫理規定に違いがあるためどちらに沿ったものとするかについて議論が必要.
以上の議論の根本は, この英文誌が JSMBE の学会誌英語版なのか国際誌としての地位を目指すのかにより左右されるのでまず「国際誌としての地位を目指すこと」を確認.
最終段階で英文の質に関して十分な確認を求める.

10. 第51回大会準備状況報告 (報 第51回大会 橋爪)

橋爪大会長より報告.

11. IEEE-EMBS2013, 第52回大会準備状況報告 (報 第52回大会 砂川)

砂川大会長より報告. 2013年7月3-7日に52回大会と共催で実施される.

IEEE 理事会にて大会予算案は承認された.

完全共催のため英語での Submission であり過去の実績では採択率 75%程度と Reject 率も決して低くは無いので, 日本からの投稿努力を期待する.

また参加費も EMBC に統一(55,000 円)される.

これらについて会員への早めの周知徹底が必要.

12-1. その他: (株) CE コーポレーションの覚書の締結 (資料24-1-12-①)

田村会長より報告.

12-2. その他: 持ち回り審議について: 論文賞と専門別研究会の名称変更と幹事追加について (資料24-1-12-②)

田村会長より報告. 論文賞と航空工学研究会の要望についてメール審議をした結果共に承認された.

1 2-3. その他：協賛等の状況（資料 2 4 - 1 - 1 2 - ③，回覧資料）
田村会長より報告。

1 2-4. その他
佐久間理事より以下報告。

1 .Medical & Biological Engineering & Computing 誌の Editor が募集中である。

かなりの負荷の多い仕事であるが，戦略的に日本からの Editor 立候補は好ましいので候補者がいれば推薦を期待する。（佐久間理事）

2 .IFMBE APWG Travelling Fellowship は 19 日から開始される

3 .科研費分科細目の改定について 4 月 23 日付けで文部科学省のホームページに掲載された。

最後に田村会長より退任の挨拶があった。

以上